



ヨーゼフ・ボイス《芸術＝資本》1979年 カラー写真、鉄フレーム、茶色の絵具の入った瓶 栃木県立美術館
©VG BILD-KUNST, Bonn & JASPAR, Tokyo, 2018 C2098



林武史《石間-野-》2018年
花崗岩 作家蔵
【参考図版:《雨の記憶》2010年】



ロバート・スミソン《スパイラル・ジェッティ》1970年 16ミリフィルムから変換したデジタル映像
Courtesy of Holt-Smithson Foundation and Electronic Arts Intermix (EAI)
©Robert Smithson / VAGA, New York & JASPAR, Tokyo, 2018 C2098
協力:東京国立近代美術館

「どんな天気でも、それはいい天気なんだ」——ドイツの彫刻家ヨーゼフ・ボイスは人間の都合とは無縁の自然の摂理をこう表現しました。巨大地震、津波、スーパー台風、連続豪雨、竜巻の突発、大洪水などが世界各地で頻発するこの21世紀になってもこの箴言は有効でしょうか。

このような気象現象を視覚化したのは風景画といわれています。しかし風景画は空間恐怖を克服すると同時に、空間の自由な表象化を固着し、今日の観光化された表象のモデルを提供することともなりました。

その一方で、風景画の成立に先立ってコスモグラフィアという地球画とも宇宙画とも呼ぶべき図像が誕生したことは美術においては重視されてきませんでした。それは天文学や地理学と美術が交差する機会がほとんどなかったからと考えられます。しかし、望遠鏡などの光学装置とヘリコプターや飛行機、宇宙探査機などの飛翔機械の目覚ましい発達によって、かつて風景画が提起した水平的眼差しとは異なる垂直的眼差しが美術に視覚革命ともいふべき事態をもたらしました。

本展は風景を成立させる基体としての大気の上層にある光源と地表、そして不可視の光源であるマグマを結ぶ垂直軸と地表的な水平軸の交差における眼差しのダイナミズムから美術における新たな世界画としてのネオ・コスモグラフィアの可能性を探る試みです。

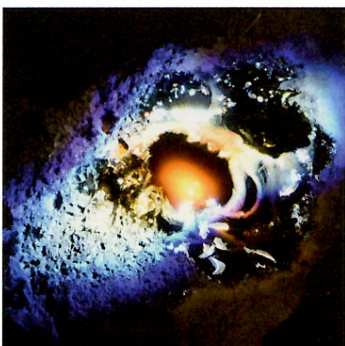
ウェザーリポート 風景からアースワーク、そしてネオ・コスモグラフィア WEATHER REPORT From Landscape via Earthworks to Neo-Cosmographia



棟方志功《『星座の花嫁』より 5星座の絵》
1928年 紙、木版 栃木県立美術館



アンディ・ゴールドズワージー《快晴の朝、凍った雪を削る。和泉村》1987年12月19日 タイプCプリント 栃木県立美術館



千葉麻十佳《Melting Stone》2017年 ビデオ 作家蔵



日高理恵子《樹を見上げてVI》
1992年 彩色・紙本(麻紙・岩絵具) 所管:水戸芸術館



デイヴィッド・コックス《ウォッシング・デイ(洗濯日和)》
1840年 紙、水彩 栃木県立美術館



松江泰治《JP-05 34》2013年 発色現象方式印画 松本大氏蔵

ギャラリートーク(担当学芸員による解説)

6月30日(土) 午後3時30分～

8月4日(土) 午後2時～

集合場所:企画展入口 *申し込み不要。いずれも1時間程度。

コレクション展 II

特集 没後30年 羽石光志

6月30日(土)ー10月21日(日)

宇都宮美術館のご案内

パナソニック 汐留ミュージアム コレクション

ジョルジュ・ルオー展

7月1日(日)ー8月26日(日)

宇都宮市長岡町1077 電話 028-643-0100

栃木県立美術館

Tochigi Prefectural Museum of Fine Arts

〒320-0043 宇都宮市桜4-2-7 電話 028-621-3566

<http://www.art.pref.tochigi.lg.jp/>



[交通のご案内]

○電車・バス

JR東京駅から東北新幹線にて約50分

JR宇都宮駅(西口6番・7番バス乗場)・東武宇都宮駅から関東バス

「作新学院・駒生行き」で15分、「桜通り十文字」下車、徒歩2分

○自家用車

東北自動車道「鹿沼インター」より約10km、20分

北関東自動車道「壬生インター」より約13km、25分